

OB

上京してからの生活



お久しぶりです(はじめましてかもしれませんが)。機会を与えていただきましたので、近況を書かせていただきます。

早いもので熊本を離れ1年半が過ぎました。2006年に熊本大学大学院に入学し、4年間熊本生活を満喫しました。熊本では多くのことを学びました。腎臓発生分野の西中村教授や研究室の皆さまに感謝いたします。

卒業後は上京し、慶應義塾大学医学部腎臓内分泌代謝内科でお世話になってお

ります。初めての東京生活ということで、東京タワーや六本木ヒルズなどに出掛けたりしました。最近は新宿や渋谷の人ごみにも慣れたような気がします。こちらでは「臨床のリハビリを下さい」と教授に配慮いただき、病棟に出ています。毎朝7時30分からの回診に間に合うよう出勤するのは大変でしたが、なんとかやっております。患者さんの診察をしている姿を想像できないかもしれませんが、今のところ大丈夫なはず(確信はないですが)。正体がばれないよう、ネクタイをして白衣を着て真面目な顔で仕事をしています。しかし、点滴のルート確保が下手クソというのは研修医時代と変わっておらず、ナースから「難しいのでルート確保お願いします」と言われるとドキドキします。

私生活では、熊本時代の2009年3月に結婚し2010年12月に長男が誕生しまし

氏名 井上秀二 Shuji Inoue
現在の所属 慶應義塾大学 医学部 腎臓内分泌代謝内科
職名 特任助教
大学在学時の所属 腎臓発生分野

た。立ち会い出産は拒否していたのですが、担当医に「来る？」と言われ、思わず「は、はい」と返事してしまい出産に立ち会うことになりました。妻の背中をさすだけで役に立ちませんでしたが、貴重な体験でした。このことで父となる自覚が芽生えたように思います。親バカですが、わが子は本当にかわいいです。なるべく早く帰宅するよう心掛け、休日は全力で息子と遊ぶようにしています。人生の節目であったと思います。

というのが近況で、幸せを手にして充実した毎日を送っております。つまらなくすいません。



息子と一緒に。元氣いっぱいです

OB

熊大発生医学研究所を振り返って



御茶ノ水橋からの風景

自分は2002年から2007年まで器官制御分野(現在の細胞医学分野)に所属しておりました。中尾光善先生と斎藤典子先生をはじめとした研究室の諸先生のご指導の下、幸いにして学位を取得することができ、現在は東京医科歯科大学の難治疾患研究所幹細胞医学分野にて助教の職務に就いております。博士課程在籍中には、主にES細胞の分化時に引き起こされるepigeneticな情報の挙動の変化の解析に従事しておりました。

現在、研究室のスタッフになり、このような文章を書く機会をいただき、あらためて熊大時代を振り返ると、東京の中心にいる現在の状況と比較しても、発生研時代というのは非常に恵まれていたなあ、というのが率直な感想です。特に学生やポスドクなどの若い研究者に対する支援体制というのはおそらく全国でもトップクラスでないかと思います。当時、大学

院の1年生だったのに研究所のセミナーで喋る機会を与えていただいたり、学会の旅費を補助していただいたり、COEのJrリサーチ・アソシエイトに何度も選んでいただき経済的な支援を受けられたことなど、本当に感謝しています。さらに遺伝子組換え、共通支援室の運営や遺伝子組換え実験や動物実験に対する委員会の設置や施設の連携や課金制度など、このような事務的な部分での連携が非常によくオーガナイズされていることに感心さ

氏名 青戸隆博 Takahiro Aoto
現在の所属 東京医科歯科大学 難治疾患研究所 幹細胞医学分野
職名 助教
大学在学時の所属 器官制御分野 (現:細胞医学分野)

せられます。とにかく研究をする上で、発生医学研究所で研究者のキャリアの一部を過ごせたのは本当にラッキーなことですし、自分自身そのような組織を作るというのは一つの目標であるかもしれませんが、現在発生医学研究所に在籍している若い学生の人たちなどは、自分たちが現在置かれている状況がどれだけ恵まれた空間の中にいるかを、日々かみ締めながら毎日を大事に過ごしていただきたいです。発生医学研究所のますますの発展をお祈りしております。



東京医科歯科大学 MDタワー

OG

Memories of Missing is the beautiful things in the past



Hello, everyone. I am Su Yuhong. In March of 2010, I came back to China from Kumamoto and now I work in the Department of Anatomy in Hebei Medical University as an associate professor.

Time already past 7 years and I still remember the first day when I went to Kumamoto. That day had a very good weather and when I came out from the airport I was very nervous. Because I never leave home so

far and I did not meet Professor Tanaka before. But Tanaka sensei and Kumamaru san found me immediately and they looked very friendly so my hanging heart finally calmed down. In the days after that things confirmed my first impression. They gave me a great deal of help. Of course I also met other lab members and they are all very kind and I learned a lot from them. During the 5 years I improved a lot. Before I went to Kumamoto, I knew a little about the technique of research. But after I finished my Ph.D I already grew up to a qualified science worker. I learned all the basic technique such cell culture, tissue culture, DNA purification and amplification, in situ and so on. These are very important and

氏名 蘇玉紅 Su Yuhong
現在の所属 Department of Anatomy, Hebei Medical University, China
職名 Associate Professor
大学在学時の所属 神経化学分野

useful to my research work in China now.

During my study in Kumamoto University, I got good experimental results and published two first author papers under the leadership of Prof Tanaka. Most importantly I learned how the look for the point of experimental design and this is very helpful for me. After coming back to China, I got one research grant support for young researchers and became one Associate Professor in Department of Anatomy of my University. At the same time I became one master course supervisor. This is the good beginning of my future research career. Therefore I want to thank all the sensei and friends in Kumamoto who give me lots of help.

OB

研究生活で得たもの



私は、大学4年生から修士課程の3年間、発生医学研究センター(現:発生医学研究所)の多能性幹細胞分野に所属し、糸昭苑教授のご指導の下、膀胱の分化を試験管内で可視化するために、遺伝子改変マウスからのiPS細胞株の樹立をテーマに研究を行っていました。

現在は、宮崎県にある106床の民間病院で薬剤師として働いています。毎日患者や他の医療スタッフと接する中で、人と向き合うことの大切さや、正しい知識と高い専門性の必要性を実感しながら充

実した日々を送っています。私が糸教授の下で研究を始めたきっかけは、学部時代の糸教授の講義で初めて知ったES細胞についてもっと学びたい、と思ったことでした。

糸研究室に所属してからは、非常に多くのことを学ぶことができました。勉強の機会は研究室の中だけではなく、グローバルCOEのリエゾンラボセミナーなどでも多くの素晴らしい先生方の講演を直接聞き、仲間とディスカッションを繰り返す機会を持つことができました。難しい話も多く、必死に勉強しなければならぬ日々でしたが、さまざまなことに興味を持ち、貪欲に調べて自分の力にするという姿勢を身に付けることができました。

また、たくさんの出会いにも恵まれました。ラボメンバーはもちろん、他の研究室の友人・先輩・先生方とも幅広く知り合

氏名 広瀬巧樹 Kohki Hirose
現在の所属 医療法人社団 宮崎善仁会病院 薬剤部
職名 薬剤師
大学在学時の所属 多能性幹細胞分野

うことができました。そのすべての出会いが私にはかけがえのないものであり、今の私を形づくったのだと思います。

現在は、直接研究に携わることはなく医療の現場で働く私ですが、学生時代の研究生活で得たすべてのことが、今でも私を成長させてくれているのだと、あらためて実感しています。

何事も積極的に学び、身に付けた知識を人のために役立て、人とのつながりを大切に、チーム医療の一員として貢献していけるよう、私は医療の現場でこれからも日々精進していきたいと思っています。



現在勤務している 医療法人社団 宮崎善仁会病院